

ピアノ・ミュージックフェスティバル・コレクション5 -これまでのピアノ曲集から集めたこれからもずっと弾きたいセレクション-

※これまでのピアノ・ミュージックフェスティバル指定楽譜集の中から、人気の高い曲を中心に集めたベストセレクションです。リットーミュージック社で発行済みの曲集と、同じアレンジの譜面が掲載されていますので、これまでの曲集をお持ちの方はご注意ください。

1. ドラえもん／星野 源 < Music Pieces 2018年05-06月号 (P14-12級) より >

SMFあり

☆☆☆☆☆

映画「ドラえもん のび太の宝島」主題歌です。Bはスタッカートなどのアーティキュレーションが少し複雑ですが、まず原曲の歌詞で歌ってみて、短く切るところと長いところを確認してから弾いてみると良いでしょう。Dの「ドドドドドドド〜」が繰り返されるところや、最後のフレーズは思い切り元気に弾いてください。

2. 浜辺の歌 < Music Pieces 2018年07-08月号 (P11-9級) より >

SMFあり

☆☆☆☆☆

寄せては返す波のような音型のピアノ伴奏が印象的な、日本の唱歌です。ここでは音数が減っていますが、波のように止まることなく弾きましょう。DからFメジャーに転調しているので、スケールを確認しましょう。Eの1、2小節目は左手がメロディーです。大らかに演奏してください。

3. プリンク・プレク・プランク／L. アンダーソン

SMFあり

★★☆☆☆

誰もが一度は耳にしたことのある、ルロイ・アンダーソンのスタンダード・ナンバーです。原曲は、ストリングス・アンサンブルによるピッツィカート（弦を指ではじく）奏法で演奏されるユーモアたっぷりの曲です。ピアノでもその雰囲気表現するために、スタッカートはあまり鋭くならないように注意して演奏しましょう。曲のところどころにある短2度の和音は、その音だけ聴くと不協和音ですが、曲中に出てくると、なぜか自然に聴こえる不思議な和音です。おしゃれな感じでキメてみましょう。

4. 君の瞳に恋してる／ボーズ・タウン・ギャング

SMFあり

★★☆☆☆

原題は「CAN'T TAKE MY EYES OFF YOU」。'60年代に発表され、そのキャッチーで明るいメロディーから世界中のアーティストにカバーされました。中でもボーズ・タウン・ギャングが歌う'80年代のディスコ風アレンジが有名です。演奏の際はドラムのキックが4つ打ちで鳴っているのをイメージして、よどみなく先に進んでいきましょう。A B Eに見られるスラーは風を感じるかのように滑らかに、CからEにかけてのスラーは逆にしっかりメロディーを主張して、ビートの効かせたfを元気に出し、雰囲気の違いを出すと曲が引き締まるでしょう。

5. いつか王子様が

SMFあり

★★★★☆

ディズニーの名曲がジャズ風にアレンジされています。AからBの終わりまでは、自由な表現を試みてみましょう。和音をアルペジオにしても構いません。Cからは一転してシャープなリズムで、軽やかなジャズワルツを楽しみましょう。王子様とのダンスでしょうか。最後のGの部分では左手の内声にメロディーが隠れていますね。名残を惜しむように余韻を楽しみましょう。逆に右手のパッセージは目立ちすぎないように注意してください。最後のトリルは静寂の中に消えていくように・・・

6. ビューティフル・ストーム／ジェニファー・トーマス < Music Pieces 2019年05-06月号 (ピアノ曲) より >

SMFあり

★★★★☆

フィギュアスケート使用曲です。曲名の通り「嵐」を思わせるように、全体にテンポや強弱にうねるような動きを付けて即興的な感情をたっぷり表現しましょう。Aは自由なテンポで、ミュージックデータの効果音や打楽器を大まかな合図としてアンサンブルすると良いでしょう。E後半、G後半ではアルペジオの最高音の動きに注意してください。

7. トリステ/A. C. ジョビン

SMFあり

★★★★☆

A. C. ジョビンによるボサノヴァの代表曲の1つ。自由なイントロの後、**B**からかなり速いテンポのボサとなります。ボサノヴァ独特の、ベースとコードによって成り立つリズムとメロディーとを、1台のピアノで表現するのはなかなか難しいものですが、ここではベースとメロディー、コードの刻みとメロディー、などとその要素を適宜抜き出しながらアレンジしています。大切なのは、たとえ音符に書かれていない部分でもずっとそのリズムが流れているのを意識していることです。また、特にミュージックデータと合わせる場合、メロディーの入りなどで拍を見失いがちになるので注意しましょう。

8. ラプソディ・イン・ブルー/G. ガーシュウィン

SMFあり

★★★★☆

ガーシュウィンが、ジャズ王と謳われたポール・ホワイトマンから、シンフォニック・ジャズ・コンサートの目玉となる曲を！と依頼され書きあげた名曲。始まりは1小節のカウントを聴いて入ります。ミュージックデータとうまく合わせられるよう、本来のピアノ・ソロの部分の要所要所に、打楽器が入っています。タイミングをうまく合わせ、トゥッティの部分につなげましょう。テンポも調も頻繁に変化し、いろいろな要素が代わる代わる出てきますが、それらの要素の性格をうまくとらえ、ミュージカルのような場面転換を楽しく表現しましょう。

9. キャラバンの到着/ミシェル・ルグラン

SMFあり

★★★★☆

ミシェル・ルグランの作曲で、ミュージカル「ロシュフォールの恋人たち」でも使われました。オーケストラのゴージャスなバックに合わせ、カッコ良く演奏しましょう。アップテンポのうえジャズ・ワルツから4ビートになったり、5拍子や2拍子をはさんだり、転調も多く目まぐるしく場面が変わりますが、切り替えはスマートに。**Intro**の右手はマリмба、またはプラスと同じタイミングです。左手もベースと息を合わせ、ユニゾンもしっかり決めましょう。バウンスするリズムは歯切れよく、**C** **D**は流れるようにとメリハリを付けて。**A**前の左手のトレモロは、バックのシンバル、ティンバニとともにクレッシェンドで盛り上げましょう。

10. ピアノ協奏曲 第2番 八短調 第1楽章/S. ラフマニノフ

SMFあり

★★

自由なソナタ形式によるもので、卓越した技巧を必要とする難曲として知られています。出だしは、ロシア正教の鐘が重々しく響き渡るイメージで、緊張感を持って始めましょう。**B**の左手は細かい装飾音型が転ばないようにしっかりと打鍵しながら、アクセントを強調することによって2分2拍子を意識した演奏を心がけてください。**F**は、まさにロマン派音楽の金字塔とも言うべき、この上なく甘美でロマンチックな旋律が印象的です。**G**ではリズムカルな楽想による力強い再現部を経て、そのままの勢いで流れ込むようにコーダを迎えます。